

ガチ E S Dに必要な コンテンツとコンピテンシー

福岡教育大学

石丸哲史

本日のお話

- 最近、ESDが宗教化しているような気がする。
- SDGsに宗教は向かうのはよいが、ESDは宗教ではない。
- ESDに必要なのはガチな学習であって、説教ではない。
- 手島利夫氏の「子どもの学びに火をつける」とガチになる。
- では、ガチな学びとは？

自分を大人だと思う

自分は責任がある社会の一員だと思う

将来の夢を持っている

自分で国や社会を変えられると思う

自分の国に解決したい社会課題がある

社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している

日本	(n=1000)	29.1%	44.8%	60.1%	18.3%	46.4%	27.2%
インド	(n=1000)	84.1%	92.0%	95.8%	83.4%	89.1%	83.8%
インドネシア	(n=1000)	79.4%	88.0%	97.0%	68.2%	74.6%	79.1%
韓国	(n=1000)	49.1%	74.6%	82.2%	39.6%	71.6%	55.0%
ベトナム	(n=1000)	65.3%	84.8%	92.4%	47.6%	75.5%	75.3%
中国	(n=1000)	89.9%	96.5%	96.0%	65.6%	73.4%	87.7%
イギリス	(n=1000)	82.2%	89.8%	91.1%	50.7%	78.0%	74.5%
アメリカ	(n=1000)	78.1%	88.6%	93.7%	65.7%	79.4%	68.4%
ドイツ	(n=1000)	82.6%	83.4%	92.4%	45.9%	66.2%	73.1%

ガチになれない18歳？

- 自分を大人だとは思っていない。
- 自分は責任がある社会の一員とは思っていない。
- 将来の夢を持っていない。
- 自分で国や社会を変えられるとは思わない。
- 自分の国に解決したい社会課題はない。
- 社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論していない。

3つの対岸の火事

- 時間的対岸の火事思考
= 「今だけだろう」 「これまでは・・・」
- 空間的対岸の火事思考
= 「よその国の話」 「自分の国には関係はない」 「よそもの」
- 人間（じんかん）的対岸の火事思考
= 「所詮人ごと」 「自分には関係ない」 「自分さえよければ・・・」

だから時間・空間・人間を越えた 教育の必要性

- 時間的対岸の火事思考から決別する
- 空間的対岸の火事思考から決別する
- 人間（じんかん）的対岸思考から決別する
- そうしないと、これからの時代は持続不可能

環境教育・ESD トーク

Environmental Education / ESD Talks from Japan

子どもの学びに火をつける
- 持続可能な社会の創り手を育む学校 -

子どもの学びに火をつける



手島 利夫 さん

Mr. TEJIMA Toshio

江東区立八名川小学校
元校長

Yanagawa Elementary School
Former Principal



0:01 / 9:02



Français
Español
العربية
中文
Google™ Custom Search
ok

UNESCO
Education
Natural Sciences
Social and Human Sciences
Culture
About Us
Themes
Worldwide
Events
Networks
Partners



Education

UNESCO » Education » Education for Sustainable Development
A- A+

Education for Sustainable Development

- Biodiversity
- Climate Change Education
- Disaster Risk Reduction
- Cultural Diversity
- Poverty Reduction
- Gender Equality
- Health Promotion
- Sustainable Lifestyles
- Peace and Human Security

Education for Sustainable Development (ESD)



©Britta Hüning

Education for Sustainable Development allows every human being to acquire the knowledge, skills, attitudes and values necessary to shape a sustainable future.

Education for Sustainable Development means including key sustainable development issues into teaching and learning; for example, climate change, disaster risk reduction, biodiversity, poverty reduction, and sustainable consumption. It also requires participatory teaching and learning methods that motivate and empower learners to change their behaviour and take action for sustainable development. Education for Sustainable Development consequently promotes competencies like critical thinking, imagining future scenarios and making decisions in a collaborative way.

Education for Sustainable Development requires far-reaching changes in the way education is often practised today.

UNESCO is the lead agency for the UN Decade of Education for Sustainable Development (2005-2014).

UNDERSTANDING DESD

- ▶ Three Terms and One Goal
- ▶ Sustainable Development (SD)
- ▶ Education for Sustainable Development (ESD)

THE DECADE OF ESD

- ▶ About Us
- ▶ Mission
- ▶ Monitoring and Evaluation
- ▶ Partners
- ▶ Who's Who

DESD FINAL REPORT SURVEY



<http://www.unesco.org/new/en/education/themes/leading-the-international-agenda/education-for-sustainable-development/>

- Education for Sustainable Development allows every human being to acquire the **knowledge, skills, attitudes and values necessary to shape a sustainable future.**
- Education for Sustainable Development means including key **sustainable development issues** into teaching and learning; for example, **climate change, disaster risk reduction, biodiversity, poverty reduction, and sustainable consumption.** It also requires participatory teaching and learning methods that motivate and empower learners to change their behaviour and take action for sustainable development. Education for Sustainable Development consequently promotes **competencies like critical thinking, imagining future scenarios and making decisions in a collaborative way.**

つまり、

ESDには、
コンテンツとコンピテンシーの両面を
重視する。

フォアキャスティングとは？ (forecasting)

過去のデータや実績などに基づき、現状で実現可能と考えられることを積み上げて、未来の目標に近づけようとする方法。

weather forecasting

すなわち、現在から未来をみる。

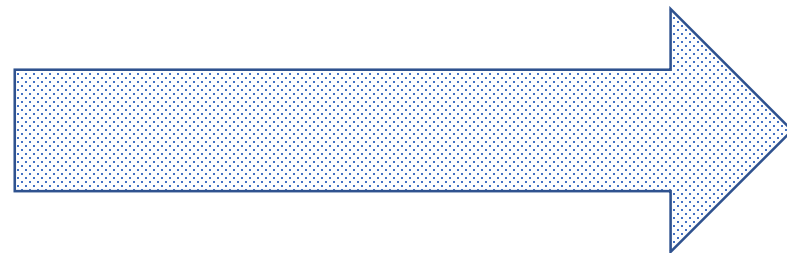
しかし、
未来がどうなるか、考えようとしな
いと・・・



すなわち、



現在



未来

これまで続けてきたので、
これからも続けていこうという思い込み

自分だけは大丈夫。
ここだけは大丈夫。
という
「正常性バイアス」

そうではないことに
そろそろ気づき始めている。。

かつての気候が
これまで続いてきたので、
これからも続くと思い込んで
いる。

「持続（可能）ボケ」

ということで、
必要な自問は？

このままで持続可能だろうか？

そうでないとするれば、どうすればいいのか？

持続可能性へのベクトル



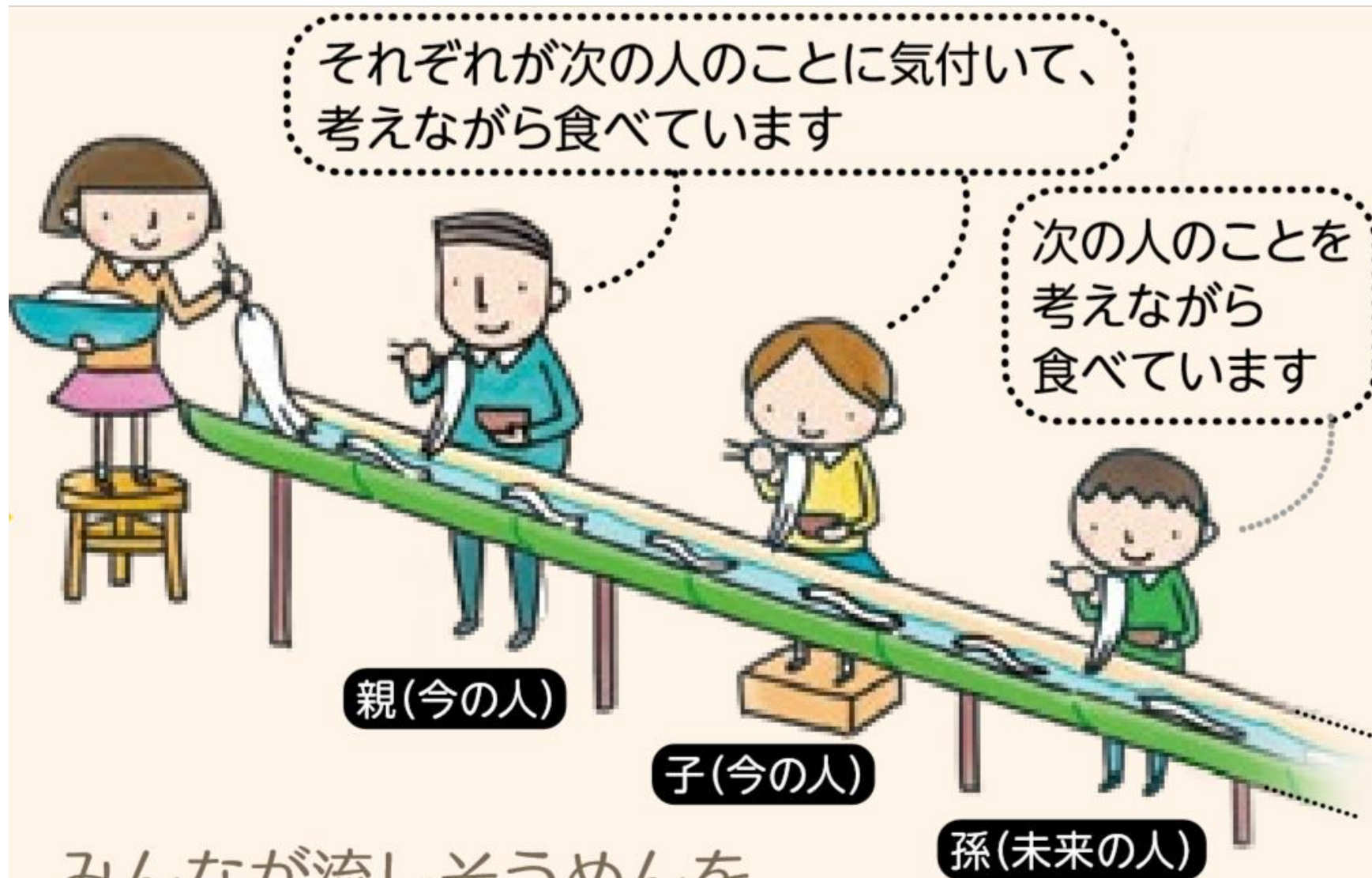
今、どうなのか？
を考える。

持続不可能な
現状の認識

どうすればいいか？
を考える。

持続可能性の追求

持続可能な社会



みんなが流しそうめんを
食べられるような仕組みをつくることが、
「持続可能な社会」につながります。

<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/kodomo/h27/files/29.pdf>

持続可能な社会に向かって行くには、
ゴールが明確になると進みやすい。

ゴールに向かって皆が合流できる。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



ESD

- Education for **Sustainable** Development
- **Sustainable** Development Goals
- Education for **Sustainable** Development Goals

このゴールに向かうために、
やるべきことは、
まず、
持続不可能な現実を把握する。

そして、



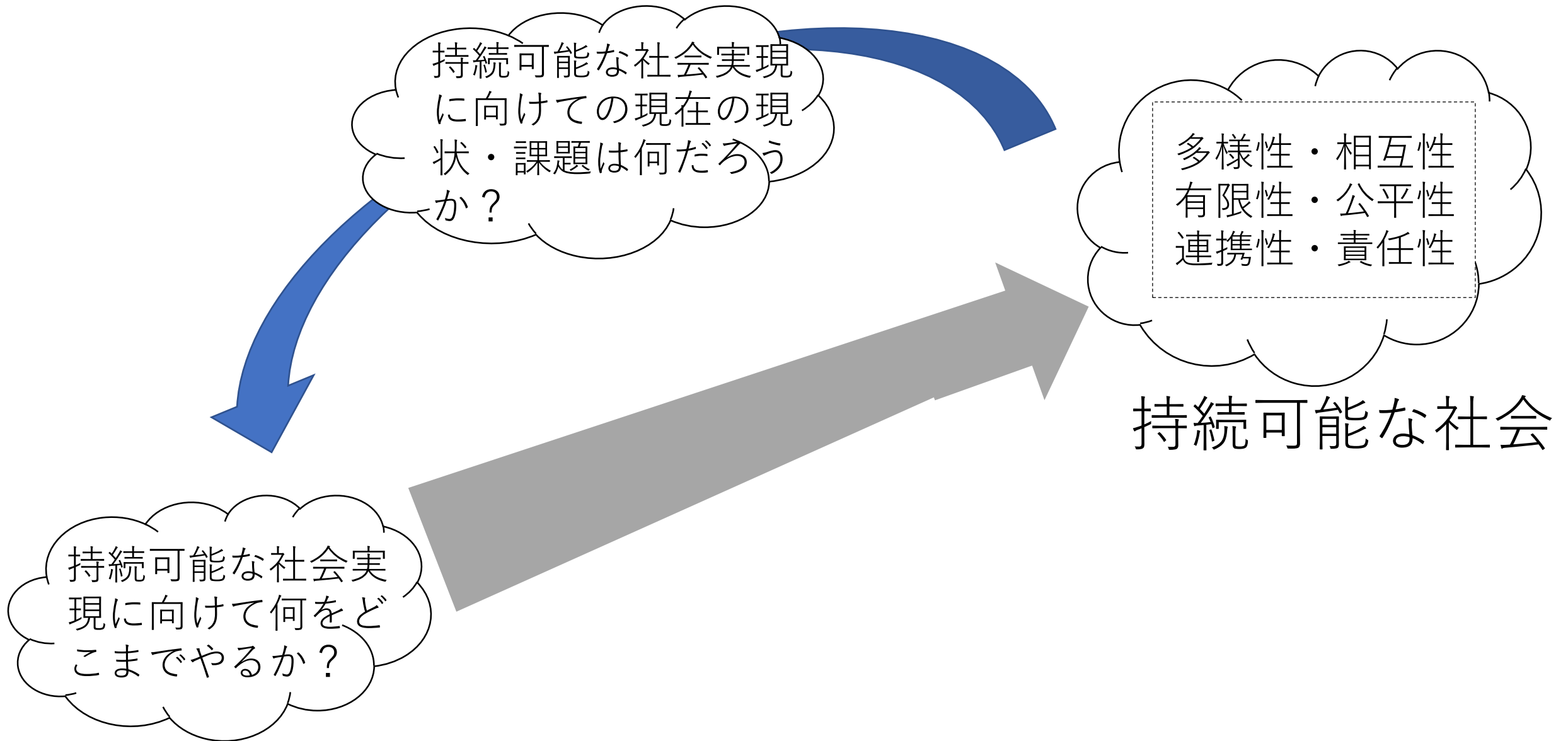
Sustainability
サステナビリティ
持続可能性

に向かう

ゴールが明確になった場合、
やるべきことは？

バックキャスティングとは？ (backcasting)

未来のある時点に目標を設定しておき、そこから振り返って現在すべきことを考える方法。[地球温暖化](#)対策のように、現状の継続では破局的な将来が予測されるときに用いられる。



すなわち、未来から現在をみる

我々が先に向かってたんだ！



今、
どうなのか？
を考える。

持続不可能な
現状の認識

どうすれば
いいか？
を考える。

持続可能性
の追求

何を
どこまでやるか？
を考える。

ゴールを
設ける。

令和の日本型学校教育とESD

資質・能力により着眼して

このたびの改訂がめざすところ
—学校教育全体のモデルチェンジ—

- 資質・能力の見直し
⇒コンテンツからコンピテンシーへ
- 授業改善について
⇒主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)
- 学校改善について
⇒カリキュラム・マネジメント
- 働き方改革
⇒資源の投入
- 感染症対策

2021/07/28 1時間2分16秒

コンピテンシーベース（資質・能力）へ

- 新学習指導要領においては、
 - ① 学習の基盤となる資質・能力や、
 - ② 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するため、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ることとされている。

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の 学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）

平成28年12月21日

知識や技能は、思考・判断・表現を通じて習得されたり、その過程で活用されたりするものであり、また、社会との関わりや人生の見通しの基盤ともなる。このように、資質・能力の三つの柱は相互に関係し合いながら育成されるものであり、資質・能力の育成は知識の質や量に支えられていることに留意が必要である。

イギリス『ナショナル・カリキュラムの枠組み』

「教科の知識を重視・強調するあまり，教育の発達的な側面の方を軽視する教育者がいる。他方では，現代社会の知識の変化は早く，『学ぶ方法を学習することこそが最優先されるべきである』と主張して，スキル，コンピテンシー，資質能力の開発に重きを置く教育者も存在する。私たちは，二者択一で考えておらず，いずれかの立場でもない。確かに、『何か』を学習することなしに，独自に『学び方』を概念化することは不可能である。」

教育課程の編成に関する基礎的研究 報告書 6 諸外国の教育課程と資質・能力－重視する資質・能力に焦点を当てて－（改訂版） 平成 25（2013）年 7 月 発行 国立教育政策研究所

国立教育政策研究所では

ESDとは何か？

E S D (**E**ducation for **S**ustainable **D**evelopment：持続可能な開発のための教育) とは，将来にわたって**持続可能な社会**を構築する担い手を育む教育です。

ESDは，これからの時代に生きる子供たちに**必要な資質・能力**を育成します。

国立教育政策研究所は、学校教育におけるESDの目指すべき目標、課題を見いだすための視点、身に付けたい力、指導を進める上での留意事項を整理し、提案しています。

ESDの視点に立った学習指導の目標

教科等の学習活動を進める中で、

持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付ける。

課題を見いだすための視点

「持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだす」ためには、意識や構えが必要です。持続可能な社会づくりの課題を見いだすための視点の例として6点示しています。

身に付けたい力

ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の例として7点示しています。

指導を進める上での留意事項

ESDの視点に立った学習指導を進める上での留意事項の例として、3つのつながりを示しています。

ガチESDに必要なコンテンツ

持続可能な社会づくりの 課題を見いだすための視点 (持続可能な社会の構成概念)

- I 多様性** ・ ・ ・ **いろいろある**
- II 相互性** ・ ・ ・ **関わり合っている**
- III 有限性** ・ ・ ・ **限りがある**
- IV 公平性** ・ ・ ・ **一人一人大切に**
- V 連携性** ・ ・ ・ **力を合わせて**
- VI 責任性** ・ ・ ・ **役割や責任を持って**

国立教育政策研究所：「持続可能な開発のための教育（E S D）」はこれからの世界の合い言葉
みんなで取り組む E S D！ ――持続可能な社会づくりを目指した取組に向けて――

I～VIを全体を見渡し、どのような社会
がイメージできるか？
その社会構築の足かせ、障害になっている
ものは何か？

ということを考えて

持続不可能な実態が理解でき、持続可能
な社会の内容がわかってくる。

(ESDのコンテンツ)

ひと・こと・ものと 持続可能な社会ビジョンとの往還

- 6つの構成概念からどのような社会がイメージできるか？
- 児童生徒にイメージさせる。
- その社会は、たとえばどういった社会なのか、具体的な事例が挙げられるか？
- 児童生徒に例示させる。
- 具体的な事象・場面⇔Ⅰ～Ⅵの構成概念⇔持続可能な社会像
往還

ガチESDに必要なコンピテンシー

E S Dの視点に立った 学習指導で重視する能力・態度

- ① 批判的に考える力
- ② 未来像を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的，総合的に考える力
- ④ コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する態度
- ⑥ つながりを尊重する態度
- ⑦ 進んで参加する態度

①批判的に考える力

合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断する力

②未来像を予測して計画を立てる力

過去や現在に基づき、あるべき未来像
(ビジョン)を予想・予測・期待し、そ
れを他者と共有しながら、ものごとを計
画する力

ミッションとビジョンの バランスと両者のつながり

- ミッションは一般的に与えられるもの。
- ミッションを抱きながらガチになるには？
 - ・ ・ ・ 使命感、インセンティブ??
- ビジョンは自ら描くもの。
- 自分で描いたものは、消えにくい。

③多面的、総合的に考える力

人・もの・こと・社会・自然などの
つながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力

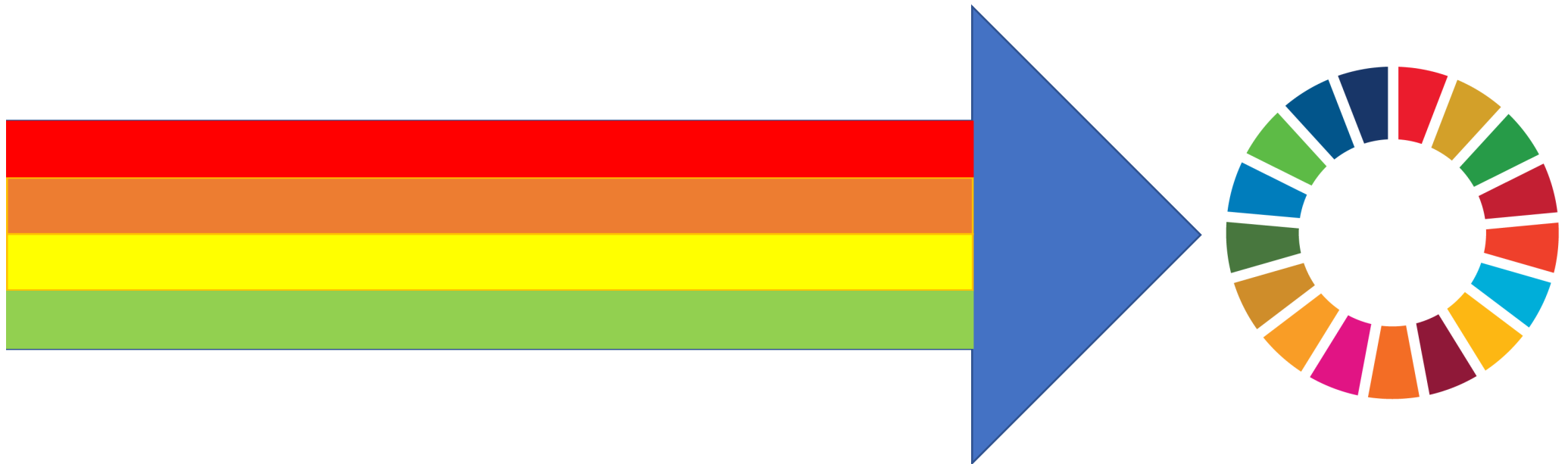
④ コミュニケーションを行う力

自分の気持ちや考えを伝えるとともに、
他者の気持ちや考えを尊重し、積極的に
コミュニケーションを行う力

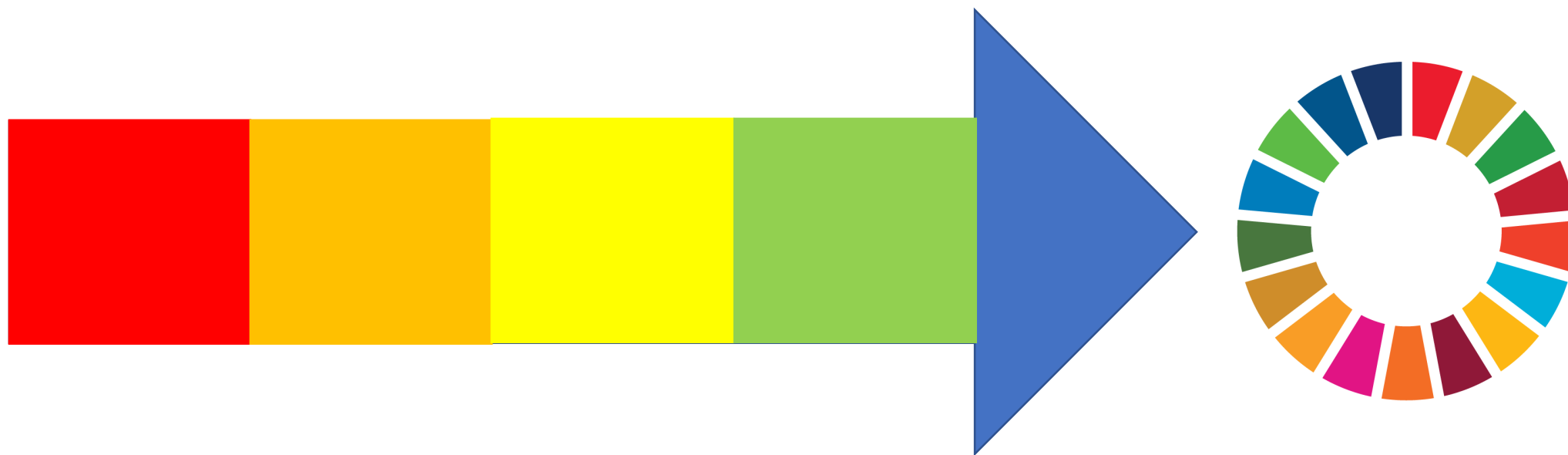
⑤他者と協力する態度

他者の立場に立ち、他者の考え方や行動に共感するとともに、他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度

ゴールに向かうネットワーキングに向けた 各主体の位置づけ (伴走パターン)



ゴールに向かうネットワークキングに向けた 各主体の位置づけ (分業パターン)



⑥ つながりを尊重する態度

人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする態度

⑦進んで参加する態度

集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようする態度

他人がやることを考えるのではなく、
自分がやることを考える。

E S Dの視点に立った 学習指導で重視する能力・態度

- ① 批判的に考える力
- ② 未来像を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的，総合的に考える力
- ④ コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する態度
- ⑥ つながりを尊重する態度
- ⑦ 進んで参加する態度

ガチになるから❶～❷が発揮される。

❶～❷が発揮されると、
持続不可能な実態が理解でき、持続可能
な社会の内容がわかってくる。

(ESDのコンピテンシー)

持続可能な社会づくりの
課題を見いだすための視点
(持続可能な社会の構成概念)

持続可能な社会実現
に向けての現在の課
題は何だろうか？

多様性・相互性
有限性・公平性
連携性・責任性

持続可能な社会実
現に向けて何をど
こまでやるか？

- ① 批判的に考える力
- ② 未来像を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的・総合的に考える力
- ④ コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する力
- ⑥ つながりを尊重する態度
- ⑦ 進んで参加する態度

E S D の視点
に立った学習
指導で重視す
る能力・態度

SDGsに向かうための 課題設定のありかた

- 自分事にさせる。
- 社会的課題の解決へ向けた自分たちは何ができるか、考えさせる。
- ガチな課題設定

子どもをガチにする
周りがすべきこと？

OECD Education2030プロジェクト が描く教育の未来

白井 俊

OECD Education2030 プロジェクトが描く 教育の未来

エージェンシー、資質・能力とカリキュラム

白井 俊 著
SHIRAI Shun

Agency
Competency
Curriculum

ミネルヴァ書房

DeSeCoのキー・コンピテンシーを2030年の文脈に照らしてアップデート

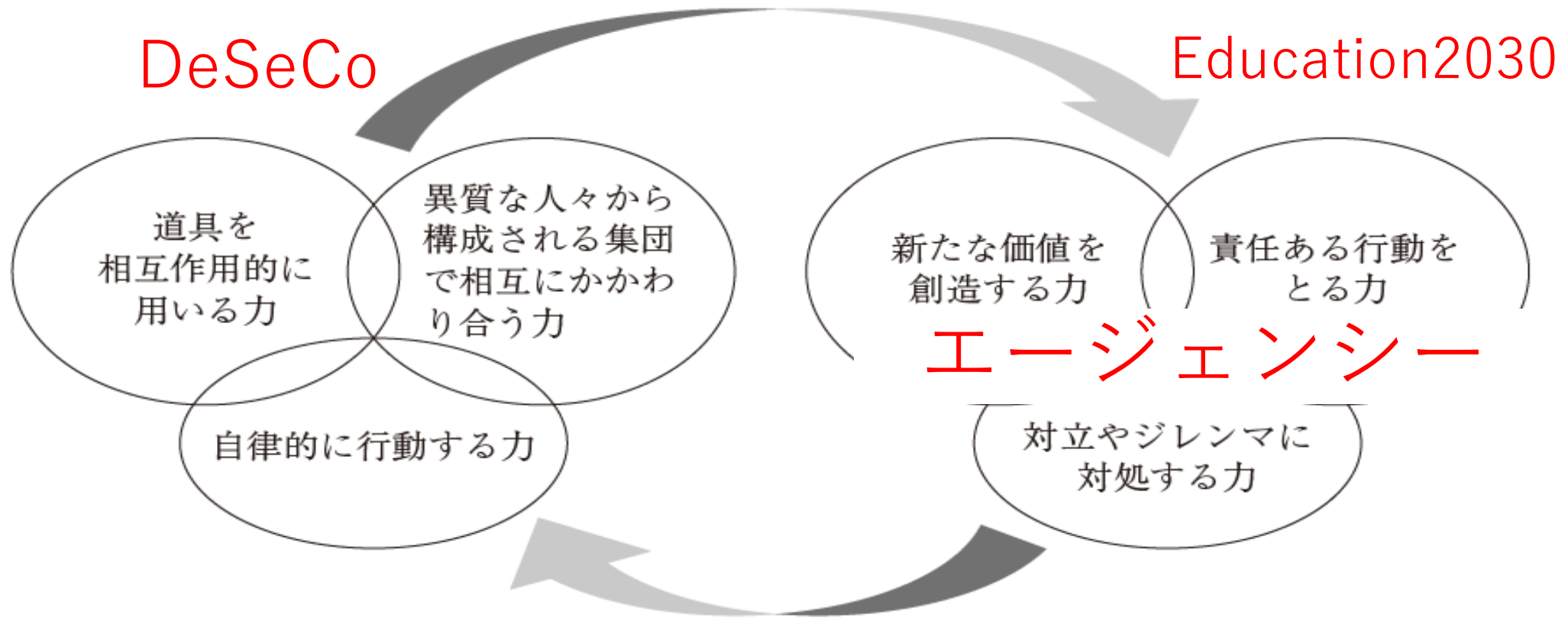


図5-1 DeSeCoと変革をもたらすコンピテンシーの関係性

出所：OECD（2017a）より。

（白井俊『OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来』（ミネルヴァ書房、2020年）p152）

エージェンシーとは？

agency

- 変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力

求められる力

- 将来的な目標を見据える力
- 批判的思考力
- 現状に疑問を持つ力 等

大人と子どもの共同エージェンシーの段階 (子どもをガチにさせる大人の関与の在り方)

0. 沈黙

1. 操り

2. お飾り

3. 形式主義・形だけの平等

4. 若者に特定の役割が与えられ、伝えられるだけ

5. 生徒からの意見を基に大人が導く

6. 意思決定を大人・若者で共有しながら、大人が導く

7. 若者が主導し、方向性を定める

8. 若者が主導し、大人とともに意思決定を共有する

OECD Future of Education and Skills 2030 Concept Note © OECD 2019

https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/studentagency/OECD_STUDENT_AGENCY_FOR_2030_Concept_note_Japanese.pdf

0. 沈黙

- 若者が貢献できると若者も大人も信じておらず、大人がすべての活動を主導し、すべての意思決定を行うのに対して若者は沈黙を保つ。

Source: Hart (1997[27]). Modified from the Ladder of Student Participation by the OECD Student Sphere (Linda Lam, Peter Suante, Derek Wong, Gede Witsen, Rio Miyazaki, Celina Færch, Jonathan Lee and Ruby Bourke).

1. 操り

- 主張を正当化するために大人が若者を利用し、まるで若者が主導しているかのように見せる。

Source: Hart (1997[27]). Modified from the Ladder of Student Participation by the OECD Student Sphere (Linda Lam, Peter Suante, Derek Wong, Gede Witsen, Rio Miyazaki, Celina Færch, Jonathan Lee and Ruby Bourke).

2. お飾り

- 主張を助ける、あるいは勢いづけるために大人が若者を利用する。

Source: Hart (1997[27]). Modified from the Ladder of Student Participation by the OECD Student Sphere (Linda Lam, Peter Suante, Derek Wong, Gede Witsen, Rio Miyazaki, Celina Færch, Jonathan Lee and Ruby Bourke).

3. 形式主義・形だけの平等

- 大人は若者に選択肢を与えているように見せるが、その内容あるいは参加の仕方に若者が選択する余地は少ない、あるいは皆無である。

Source: Hart (1997[27]). Modified from the Ladder of Student Participation by the OECD Student Sphere (Linda Lam, Peter Suante, Derek Wong, Gede Witsen, Rio Miyazaki, Celina Færch, Jonathan Lee and Ruby Bourke).

4. 若者に特定の役割が与えられ、伝えられるだけ

- 若者には特定の役割が与えられ、若者が参加する方法や理由は伝えられているが、若者はプロジェクトの主導や意思決定、プロジェクトにおける自分たちの役割に関する判断には関わらない。

Source: Hart (1997[27]). Modified from the Ladder of Student Participation by the OECD Student Sphere (Linda Lam, Peter Suante, Derek Wong, Gede Witsen, Rio Miyazaki, Celina Færch, Jonathan Lee and Ruby Bourke).

5. 生徒からの意見を基に大人 が導く

- 若者はプロジェクトの設計に関して意見を求められ、その結果について報告を受け、**大人がプロジェクトを主導し、意思決定**を行う。

Source: Hart (1997[27]). Modified from the Ladder of Student Participation by the OECD Student Sphere (Linda Lam, Peter Suante, Derek Wong, Gede Witsen, Rio Miyazaki, Celina Færch, Jonathan Lee and Ruby Bourke).

6. 意思決定を大人・若者で共有しながら、大人が導く

- 大人が進め、主導するプロジェクトの意思決定の過程に、若者も参画する。

Source: Hart (1997[27]). Modified from the Ladder of Student Participation by the OECD Student Sphere (Linda Lam, Peter Suante, Derek Wong, Gede Witsen, Rio Miyazaki, Celina Færch, Jonathan Lee and Ruby Bourke).

7. 若者が主導し、方向性を定める

- 若者が大人の支援を受けてプロジェクトを主導し、方向性を定める。大人は意見を求められたり、若者が意思決定しやすいように指針やアドバイスを与えたりするが、最終的にすべての意思決定は若者が行う。

Source: Hart (1997[27]). Modified from the Ladder of Student Participation by the OECD Student Sphere (Linda Lam, Peter Suante, Derek Wong, Gede Witsen, Rio Miyazaki, Celina Færch, Jonathan Lee and Ruby Bourke).

8. 若者が主導し、大人とともに意思決定を共有する

- 若者がプロジェクトを主導し、意思決定は若者と大人の協働で行われる。プロジェクトの進行や運営は若者と大人の対等な立場で共有される。

Source: Hart (1997[27]). Modified from the Ladder of Student Participation by the OECD Student Sphere (Linda Lam, Peter Suante, Derek Wong, Gede Witsen, Rio Miyazaki, Celina Færch, Jonathan Lee and Ruby Bourke).

E S Dの本質的問答

- 持続不可能性に**気づく**か、気づかないか？
- 「この持続不可能性が問題である。」
と**思う**か、思わないか？
- 「どうすれば、この問題を解決できるか？」と
考えるか、考えないか？
- この課題解決方法を**思いつく**か、思いつかないか？
- 解決に向けて**やる**か、やらないか？